

# 京都精華短期大学

男女共学

'74年度大学案内

● 本学志望のみなさんへ ②

● コース案内 ③

● 学科課程 ④

● 一般教育 ⑤

● 英語英文科 ⑥

● 貿易英語コース ⑦

● セクレタリーコース ⑦

● ガイドコース ⑧

● 英米文学コース ⑧

● 国際文化コース ⑨

● 専攻科 ⑩

● アッセンブリー・アワー ⑫

● 座談会 青年は無関心か ⑫

● 寮生活とわたし ⑫

● 顔・顔・顔 ⑬

● 教員組織と担当科目 ⑬

● 美術科 ⑭

● 絵画コース ⑭

● デザインコース ⑮

● 染織コース ⑱

● 立体造形コース ⑱

● 専攻科 ⑲

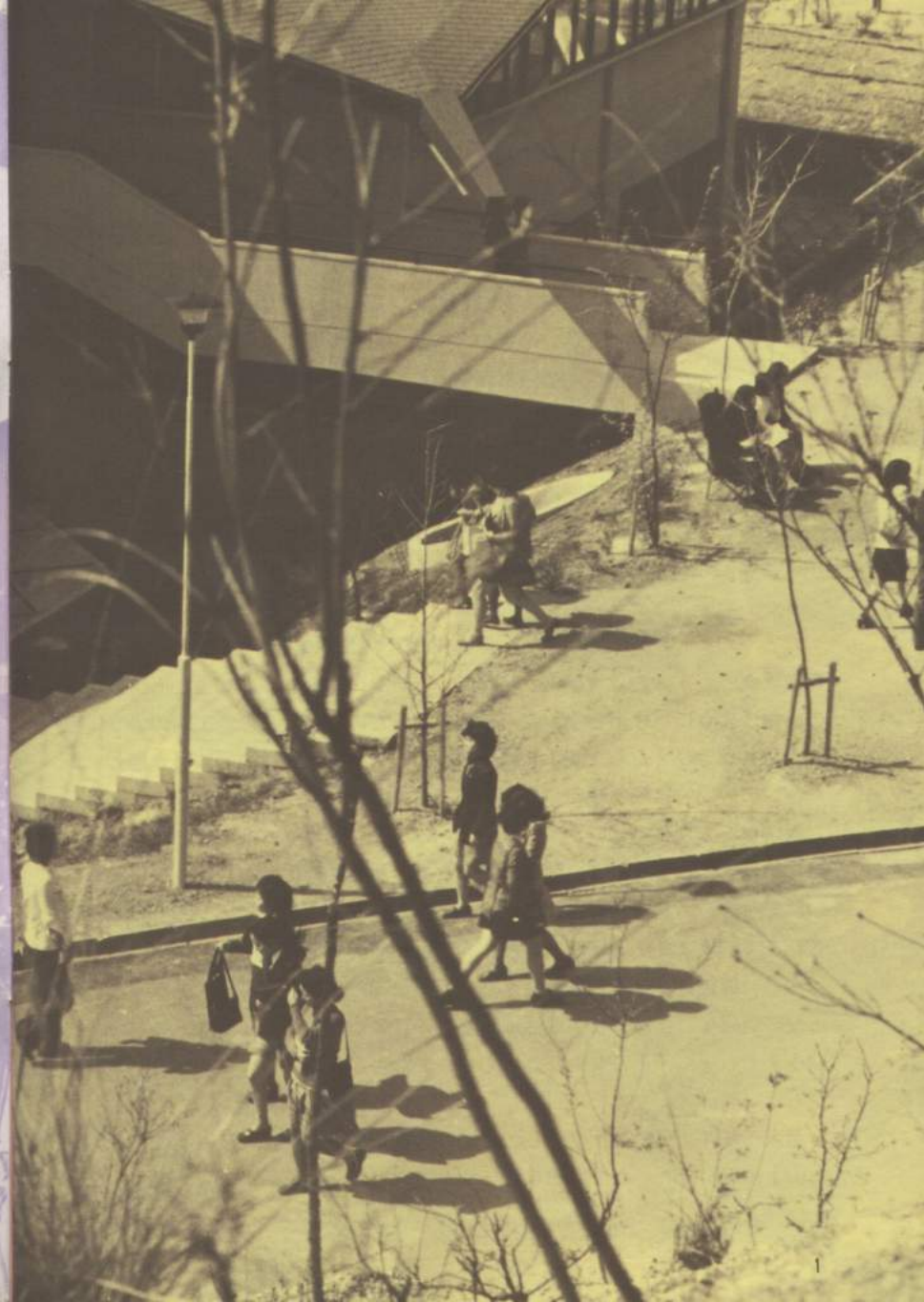
'74年度 英語英文科募集要項 ⑥④

'74年度 美術科募集要項 ⑥⑥

卒業後の進路 ⑦①

大学案内図 ⑦②

本学志望のみなさんへ	2
コース案内	3
学科課程	4
●一般教育	5
●英語英文科	6
貿易英語コース	7
セクレタリー（秘書）コース	7
ガイドコース	8
英米文学コース	8
国際文化コース	9
専攻科	10
●美術科	14
絵画コース	14
デザインコース（デザインクラス、マンガクラス）	15
染織コース	18
立体造形コース	18
専攻科	19
アッセンブリー・アワー	22
座談会 青年は無関心か	28
寮生活とわたし	32
顔・顔・顔	38
教員組織と担当科目	58
'74年度 英語英文科募集要項	64
'74年度 美術科募集要項	66
卒業後の進路	70
大学案内図	72





わたしは、かつて、青春のもっともよい時代の20余年を、ある学園で楽しく、意義深く過したのであった。そこには、入試も、テストも、卒論もなかったが、学びたい人々がすすんで集まっていた。教える者にも、教わる人々にも、楽しい時間であった。一種の誇りをもって思いだされるのは、そうした親和力のなかでもしだされた知的雰囲気だった。湯川秀樹氏、松田道雄氏のような優秀な人々が学生時代にそこに学んだこともよい思い出の一つである。

しかし、それも今では遠い追懐のなかにもみ生きているにすぎない。ところが、とつぜん、それに似かよった空気をこんにちの京都精華短期大学にみだしてわたしはおどろいている。本学の教職員と学生が、学内で、途上で、電車のなかで——いたるところで「こんにちは！」「さよなら！」となんのこだわりもなく挨拶を交わしている。また、食堂では、同じテーブルについて、談笑しながら、昼食をとり、コーヒーをのんでいる。それは小人数のクラスで、集中的な、熱心な、効果的な授業のあとでくつろいだひとときである。

こうした平凡な、あたりまえの光景が、こんにちの日本の教育に必要ではないだろうか。しかも、それがいちばん欠けているものではないだろうか？。その欠乏が、わが国の教育を乾からびた、味気ないものにし、知性と心情が、車の両輪のように、平衡を保つことを困難にしたのではないか。工場のように巨大な校舎がそびえたち、数千、数万の学生と教師とを、精神的に引き離し、いっさいの人間的接触と親和を不可能にしたのではないか。

大学は、まだ若い。いまようやく6才になろうとしている。その成長と完成が期待されている。本学を創立した人々の理想と意気にわたしは敬意を表したい。そして、いまようやく新芽が出はじめたわが大学が、やがて花を開き、実を結んで、みごとな伝統が創造されることを期待しよう。

なお、最後にひとこと書き添えたいのは、盲人や聾啞の若人がすでに本学の正規の課程をおえて、社会で活躍していることである。それは本人にとってはいうまでもなく、その家庭にとっても、また大きなよろこびであり、光であるにちがいない。

若人たち、父兄の方々、いちど、緑の丘にかこまれ、澄み切った空気と清冽な山水にめぐまれたわが学園をお訪ねください。

学長 / 宮本正清

